

**楠木正行** 武将。父正成の遺訓を守り、畿内の南朝方中心として転戦、足利尊氏側の大軍との激戦で重傷を負い自害。

くすのきまさつら

北条氏外執権1326 = 楠木正成の長子に生まれる。

**鎌倉幕府滅亡**1333 = 7歳 :

中先代の乱・1335 = **9歳** :

**南北朝分裂**・1336 = 10歳 : \*桜井駅で別れた父の死後、摂津守・河内守にも任せられ、河内に帰り、庭訓を守り遊戯にも朝敵を討つことを事としたという。楠木一族の中心となって、和泉・河内の在地領主層を結集した。後醍醐天皇の末世には帯刀に任官され、吉野の行宮に仕えた。

足利尊氏將軍1338 = 12歳 : 後醍醐天皇が崩じた時、一族和田和泉守とともに行宮の守護に当たった。

南軍の将として畿内各地を転戦し、

..... 1344 = **18歳** : 河内観心寺鎮守社が罹災した際には、後村上天皇に奏上し再建に尽力した。

..... 1347 = 21歳 : \*紀伊国伊都郡に隅田一族の拠点隅田城を攻めた。同年、細川頼氏と河内国池尻に戦って、これを破り天王寺辺まで進出し、細川方の援軍山名時氏の大軍を敗走させた。この報により、足利尊氏が進発させた高師直・師泰の大軍との決戦をせまられ、

..... 1348 = 22歳 : \*四条隆資の軍に属して、河内国四条畷で師直軍と激戦、重傷を負って自害した。「太平記」に描かれた桜井駅における正成・正行父子訣別の場面は、敗戦前、忠孝の典型として修身教科書や小学唱歌などにとりあげられた。